

看護専門外来

糖尿病ケア・看護外来

当外来は、糖尿病患者に専門性の高い看護を提供することを目的として、看護部により平成 16 年 4 月に開設した。

1. スタッフ

看護師長 1 名（専任）（糖尿病療養指導士）

2. 活動内容

(1) 活動内容の概要

当外来は、専任の看護師が糖尿病・内分泌・代謝内科医師の指導、協力のもと、糖尿病患者を対象とした療養支援を行っている。

(2) 活動の特色

1) 糖尿病自己管理指導

当外来の患者は、65 歳以上の高齢糖尿病患者が大半であるため、安全で簡便な自己管理方法を提供している。また、平成 29 年度より 24 時間持続血糖測定 (CGM) を導入し、生活習慣の改善指導も行っている (170 点)。

2) 糖尿病透析予防指導

糖尿病腎症発症、進行予防のために糖尿病・内分泌・代謝内科医師、管理栄養士とチームを組み、糖尿病透析予防指導 (350 点) を行っている。

3) 糖尿病足病変 (足潰瘍、足壊疽) 予防フットケア

糖尿病足病変リスク別に患者を層別化した「Osaka University Diabetic Foot Care Program」を作成し、リスクに応じたフットケアを行っている (170 点)。

4) 糖尿病合併症の早期発見、進行防止

糖尿病合併症外来、糖尿病メタボリックステーション外来と協働し、血管合併症 (動脈硬化) の検査を行っている (約 1,000 点)。

3. 活動体制

予約制 (当日依頼可)

4. 活動実績

(1) 平成 30 年度受診件数 (延)

平成 30 年度受診総数は 801 件で、内訳は糖尿病自己管理指導 454 件、糖尿病透析予防指導 257 件、糖尿病足病変予防フットケア 18 件、糖尿病合併症外来・糖尿病メタボリックステーション外来 72 件であった。

(2) 平成 30 年度の活動において特記すべき事項

平成 30 年度は、指導件数 (糖尿病自己管理指導、糖尿病透析予防指導) が昨年度に比し約 6 割増加した。糖尿病重症化予防には日々の食事や運動を振り返ることが重要で、指導機会を増やしその環境を整えたことが総受診件数の増加につながった。

スキンケア外来

当外来は、様々な病態や治療に伴う皮膚トラブルを有する、またはそれが予測される患者に対して、専任の看護師が、ストーマケア、創傷ケア、失禁ケアを提供し患者の QOL の向上を図ることを目的として、消化器外科、泌尿器科、皮膚科医師のサポートのもとに平成 22 年 4 月に開設した。

1. スタッフ

看護師長 1 名 (専任) (皮膚・排泄ケア認定看護師)
副看護師長 1 名 (兼任) (皮膚・排泄ケア認定看護師)

2. 活動内容

ストーマ造設手術を受ける予定の患者には、術前のストーマサイトマーキングから介入を開始する。病棟や外来主治医からの依頼に応じてストーマケアに関するオリエンテーションや情報提供を行う。

術後は病棟看護師と連携をとりながら、合併症の早期発見、患者の装具交換手技の自立を目指してケアを行い、社会復帰にむけての準備を行う。

退院後は、社会復帰を目標として皮膚・排泄ケア認定看護師が継続してケアを実施する。具体的には、定期的な観察によるストーマ合併症の早期発見とその対応、適切な装具選択によるストーマ周囲皮膚炎の予防、新しい製品の情報提供などである。また、障害受容の促進のための精神的サポートも大切にしながら、ストーマ保有者の QOL 向上に向けて取り組んでいる。

ストーマケア以外にも、入院中に創傷ケアなどで相談を受け介入した事例については、その後必要に応じて外来でも継続してケアを行っている。

小児外科外来では、ストーマ造設患児のケアとともに直腸肛門奇形などにより排泄障害をもつ児及び親へのケアを行っている。具体的には、成長発達を考慮した排泄方法の検討、教育機関、地域のケア担当者との連携、精神的ケアなどである。

3. 活動体制

予約制

4. 活動実績

平成 30 年度における当外来の介入件数は、消化器ストーマ 468 件、泌尿器ストーマ 128 件であった。小児外科症例に対するストーマケアを含めた排泄ケア及びスキンケアは 167 件であった。